

恐ろしいムダ・悲痛な発見（新しき世界へ 1972年9月号）

桜沢如一

四十八年ー私は長いムダ道をした！

私はまず健康を確立し、次に「無限の自由、永遠の幸せ、絶対の正義」を身につけて、タノシイ、おもしろい、アリガタクテたまらない生活をする法を万人に説くためにのみ四十九年努力して来た。そして今思うコトは大きなムダをしたモノだ、ということである。

タクサンの人が正食によって健康の国までは来た。それから幸せと、自由と正義の国への登山がはじまるのだが、モーそれから先に進む人はりょうりょうたるモノ。百万人に一人。

久しぶりで日本に来て見ると恐ろしい毒々しい五色の食物の洪水に人々は喜んで身をまかせて流されている。ゼンソクや便秘やイボ1つ治せないような医学が大殿堂をもっている。刃物を追放する運動で不良少年の暴行をなくするコトができると思うような低級な判断力（ソレは悪人や悪商品にだけ必要なモノだが）が白昼堂々に行われている！政治や教育になっている。恥かしい宣伝・広告・自己宣伝バカリの国、これが日本であったのか！？

私は四十八年間のムダをハッキリ知った。私の四十八年といた正食ー桜沢流フランス風情精進料理はドンナ病気を治して来た。テンカン、精神病、結核、ルイコデルマ（白ナマズ、または皮膚のライ病）、神経痛、リウマチ、小児マヒ、糖尿、血のガン、白内障、一般ガン、子宮ガン、高低血圧、ライトロンボージス、皮フ病、エレファンタイシス…ドレ一つだって西洋医学には根治も予防もできないモノばかり。

ワルイことをした！と私は今ツクツク思う。少なくともマズイ事をやった。

というのは、私の東洋医学のネライは単に病気を治すコトではなく、無限の自由、永遠の幸せ、絶対の正義を各人が自分で自身につけるコトで（病気治しや、無病息災や、不老長寿はその景品にすぎない）であったからである。

人間は自分の身の食物をとるべきであり、他人に食べさせてもらったり、たべてもらうコトはできない。自由と幸せと正しい判断力、正義も同様、自分で身につけるべきであるのに、ソレを私は助けて来た。与えられた自由は不自由であり、借金だった。私は神に反逆し、人間の自由に手をかして、ドレイにしてしまった。よし、百万円、千億円出す、という人があっても健康と、自由、幸福と正義のカギは与えるべきではなかった。ワルイ事をした。神への反逆であり、人への欺きであった。少くとも売文行為だった。売名行為だった。

こんなコトを学ぶために私は日本に来たのかしら。

マスコミ、宣伝、PRは売名行為、あるいは自由、自主性、創造、洞察力を殺す反民主主義である。大きなムダだ。犯罪だ。つまり、人生はムダ、大浪費、大ラン費の舞台である。

私もソノ一人だった?! これは大変である。

(「新しき世界へ」 No.301 1961年1月号より)

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください